

1980年5月の光州での痛ましい事件を今も深く記憶する韓国では大学教授や研究者たちが、市民的不服従運動を展開するミャンマーの市民・労働者・青年に連帯する熱い声明を発表しました。ソウル大学の南基正教授らが在韓国ミャンマー大使館前で記者会見しました。以下がその声明文です。

自国民への虐殺を厭わないミャンマー軍部を糾弾し、

市民的不服従運動を展開するミャンマーの市民・労働者・青年に連帯する

韓国の教授・研究者声明

ミャンマーにおける混沌に終わりが見えない。ミャンマー軍部が2020年11月の総選挙結果を否定しクーデターを起こした2月1日以降、軍部に対するミャンマー民衆の抵抗が拡散し続けている。これに対してミャンマー軍部は実弾を発射する蛮行を犯し、民衆の平和的な不服従運動を容赦無く弾圧している。クーデター後、50日が経つ間、2,400人以上が拘禁され、230人以上が銃撃と拷問により命を失った。事態は日増しに深刻化し、3月12日以降の死者が死者全体の半数以上を占める事態に至っている。

事態を憂慮する国際社会の声に対し、ミン・アウン・フラインの率いるミャンマー軍部は一切耳を傾けようとはしない。事態の背景に対する様々な憶測、解決に関する国際政治上の打算や力学、介入の是非をめぐる政治的意図と立場が複雑に入り乱れ衝突している。しかし、非暴力を貫き素手で立ち上がった民衆に銃口を突きつけ、引き金を引き、棍棒を振り回す軍部の蛮行は、いかなる論理からも正当化することはできない。そしてミャンマーの民衆が受けている不当な苦痛に対する共感と連帯の表明は、いかなる理由からも遅滞させてはならない。

私たちは特に、市民的不服従運動に参加し、これを援護するために無期限ゼネストに突入した、ミャンマー労働運動指導部に対して、ミャンマー軍部が扇動罪を適用して弾圧している現実を憂慮する。ミャンマー労働者の組織的な闘争は、現軍部がミャンマー経済を

掌握して私益を追求する利益集団に過ぎず、今回のクーデターが彼らの享受してきた既得権を擁護しようとする悪あがきにすぎない、ということを克明に表わし示している。さらに、ミャンマー民衆の闘争は、軍部が擁護する既得権に乗って利益をゆする国際資本への強烈な問題提起でもある。

ミャンマーの民衆が命がけで撮って送ってくる写真や動画には、41年前に光州で起きたできごとが再現されている。5月の光州の痛ましい記憶に苛まれてきた私たちは、これに怒りを抑えきれず、国際的な連帯の先頭に立ってミャンマー民衆の不服従運動を支持し、連帯しようとする。特に民主主義と平和の価値を実現するために学術活動を組織し実践してきた教授・研究者として、私たちはこの隊列の先頭に立つべき責務がある。

ここに韓国の教授・研究者たちは、民主主義の回復を熱望しているミャンマーの市民、労働者、青年たちに連帯し、次のように要求する。

1. ミャンマー軍部は自国民への国家暴力を直ちに停止し、すべての拘禁者と政治犯を即時釈放し、権力を直ちに民間に移譲せよ！

1. キャンドル革命で誕生した韓国政府は、ミャンマー民衆の抗争に答えてクーデターの終息と民主主義の回復のための具体的な行動に出よ！

1. 韓国企業は、ミャンマー軍部とのすべての交流を直ちに中断し、韓国企業で働くミャンマーの労働者が市民的不服従運動に参加したという理由で不利益を受けないように保護せよ！

1. 国連とASEANなどの国際機関は、ミャンマー軍部に対する強力な制裁を実施し、ミャンマーへの武器輸出禁止を含む実質的な措置を設けよ！

1. 世界の知識人、学者、研究者は、クーデターに断固反対し、ミャンマーの市民、労働者、青年の民主化闘争を支持する国際的連帯に積極的に参加せよ！

韓国の教授・研究者一同 (2021年3月23日)